

# 見守り、背中を押してくれて ありがとう。



祝成人!  
緑ヶ丘地区出身  
寺中 唯さん

そんな唯さんの成長に俊二さんは「とても内気だった唯が今では自分よりもしっかり者になりました」と、嬉しそうに話していました。

## 家族と過ごした日々は大切な思い出

「父は写真を撮ることが好きで、幼い頃は撮影もかねて家族で季節の花をよく観に行きました。朝早くからお弁当を持って、きれいな花を観なが

ら家族で過ごしたことは思い出に残っています。母はコスモスが大好きで、今でも毎年コスモスを観に家族で出かけます」と家族との思い出を唯さんは楽しそうに話してくれました。

## 故郷である荒尾を離れさらに歩みを進める

祖母と両親共に看護師の家庭に生まれ唯さんは、看護師になるため勉強中です。「両親は私がやることにあまり口出しせず背中を押してくれたので、看護師を目指すことが自分の意思で決断することができました。いつも見守ってくれる両親にはとても感謝しています。二人のような看護師になれるように頑張りたいので人の役に立てるようになりたい」と口癖のように話していました。

## 母からのメッセージ

引っ込み思案な性格でしたが人前で堂々と話せるようになり、頼もしく成長してくれました。看護師の道を選び、成長していく姿が楽しみです。大変だと思いますが、体に気を付けて頑張ってください。いつまでも応援しています。



荒尾を離れますが新しい環境でも頑張ります!



## 大切な思い出



お父さんが撮影した応援団の副団長姿。唯さんもお父さんもお気に入りの1枚。



今はもうなくなった野原にあったコスモス園。毎年家族で観に行きました。

内気だった少女が今ではしっかり者に  
3姉妹の長女で幼少期はとても内気だった唯さん。4・5歳くらいまで毎朝、父の俊二さんに抱っこして保育園の部屋まで連れて行ってもらうなと通園できないほどでした。俊二さんが園に迎えに行ったとき、唯さんの様子を見てみると、友達と遊ばず園庭の隅の植木鉢をひっくり返してダンゴムシを見つけているなど、一人で遊んでいることが多かったそうです。言いたいことを自分から伝えられなかった幼少期。そんな唯さんも、習っていたバレエで舞台上に立つようになった頃から徐々に社交的になりました。「人との関わり方をアドバイスしてくれたのは周りの友人たちです。特に幼馴染には時に厳しく、時に優しく、いろんなことを教えてもらいました」と話す唯さん。その頃からどんどん人前に立ち、生徒会や運動会の応援団、生徒代表の挨拶やフェスティバルの司会など人前で堂々と話せるようになったそうです。